

参考データ集

国際石油開発帝石株式会社

2019年11月7日

決算期(事業年度の末日)の変更の補足説明 *INPEX*

- 決算期を3月31日から12月31日に変更する予定
- 決算期変更の経過期間となる2019年12月期(2019年度)は、2019年4月1日から2019年12月31日までの9ヶ月決算を予定。
- 比較参考として、2019年12月期(2019年度)と同期間の2018年度を「2018年度調整後実績値」とする。財務報告数値(決算短信等に記載の数値)、調整後実績値^(注1)の対象は以下の通り。

<財務報告数値(決算短信等に記載の数値)>

	2018年				2019年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
当社および仮決算子会社等 ^(注2)		2019年3月期				2019年12月期		
12月決算子会社 ^(注3)		(2018年度)				(2019年度)		

<調整後実績値^(注3)>

	2018年				2019年			
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
当社および仮決算子会社等 ^(注2)		2018年度				2019年12月期		
12月決算子会社 ^(注3)		調整後実績値				(2019年度)		

(注1) 調整後実績値は、監査法人による監査は受けておらず、比較のための参考値。

(注2) 当社、主な国内連結子会社、海外プロジェクトの仮決算子会社。仮決算子会社とは決算日は12月31日であるが、連結決算に与える影響が相対的に大きいため、3月31日に組み替えて決算を行った子会社。

(注3) 決算日が12月31日の子会社。2019年12月期は9ヵ月決算であるが、12月決算子会社の決算は2019年1～12月の12ヵ月分が連結される。仮決算子会社、12月決算子会社の具体例は参考データ集P.2「連結子会社および持分法適用関連会社」ご参照。

連結子会社および持分法適用関連会社 **INPEX**

連結子会社 64社

主な連結子会社	国(地域)名	出資比率	ステージ	決算期
ジャパン石油開発	アラブ首長国連邦	100%	生産中	3月(仮決算)
JODCO Onshore Limited	アラブ首長国連邦	51%	生産中	12月
JODCO Lower Zakum Limited	アラブ首長国連邦	100%	生産中	12月
サウル石油	東チモール民主共和国	100%	生産中	12月
INPEX Ichthys Pty Ltd	オーストラリア	100%	生産中	3月(仮決算)
インペックス南西カスピ海石油	アゼルバイジャン	51%	生産中	3月(仮決算)
インペックス北カスピ海石油	カザフスタン	51%	生産中	3月(仮決算)
INPEX Oil & Gas Australia Pty Ltd	オーストラリア	100%	生産中	12月

持分法適用関連会社 21社

主な持分法適用関連会社	国(地域)名	出資比率	ステージ	決算期
MI Berau B.V.	インドネシア	44%	生産中	12月
Angola Block 14 B.V.	アンゴラ	49.99%	生産中	12月
Ichthys LNG Pty Ltd	オーストラリア	66.245%	生産中	3月(仮決算)

2

セグメント情報

INPEX

2019年12月期第2四半期(2019年4月1日～2019年9月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア・オセアニア	ユーラシア (欧州・NIS諸国)	中東・アフリカ	米州	計	調整額 (注1)	連結財務諸表計上額(注2)
売上高	62,828	149,059	43,736	314,761	6,545	576,930	△ 1,661	575,269
セグメント利益又は損失 (△)	12,158	72,657	10,846	200,686	△ 6,888	289,461	△ 8,745	280,715

- (注)
- セグメント利益の調整額△8,745百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用の主なものは、報告セグメントに帰属しないのれんの償却及び一般管理部門にかかる費用であります。
 - セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3

LPG売上高

	19年3月期第2四半期 (2018年4月-9月)	19年12月期第2四半期 (2019年4月-9月)	増減	増減率
売上高 (億円)	4	15	11	263.2%
販売量 (千bbl)	76	151	75	99.2%
海外生産分平均単価 (\$/bbl)	50.40	44.86	△ 5.54	△ 11.0%
国内生産分平均単価 (¥/kg)	74.76	67.89	△ 6.87	△ 9.2%
平均為替 (¥/\$)	108.53	109.15	0円62銭円安	0.6%円安

地域別販売量 (千bbl)	19年3月期第2四半期 (2018年4月-9月)	19年12月期第2四半期 (2019年4月-9月)	増減	増減率
日本	2 (0.1千ト)	1 (0.1千ト)	△ 0 (△0.0千ト)	△ 25.8%
アジア・オセアニア	74	150	76	101.8%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	-	-	-	-
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	-	-	-	-
合計	76	151	75	99.2%

4

営業外収益・費用

(億円)	19年3月期第2四半期 (2018年4月-9月)	19年12月期第2四半期 (2019年4月-9月)	増減	増減率
営業外収益	336	120	△ 215	△ 64.1%
受取利息	41	17	△ 23	△ 56.7%
受取配当金	14	22	8	58.7%
持分法による投資利益	105	42	△ 62	△ 59.6%
受取補償金	74	-	△ 74	-
為替差益	52	-	△ 52	-
その他	47	37	△ 9	△ 20.9%
営業外費用	130	216	85	65.8%
支払利息	47	143	95	200.1%
生産物回収勘定引当金繰入額	16	19	2	12.9%
為替差損	-	6	6	-
その他	65	47	△ 18	△ 27.9%

5

利払い・償却・探鉱費前利益(EBIDAX)

(百万円)	19年3月期第2四半期 (2018年4月～9月)	19年12月期第2四半期 (2019年4月～9月)	増減	備考
親会社株主に帰属する純利益	34,034	69,487	35,453	P/L
非支配株主に帰属する純損益	7,010	1,911	△ 5,099	P/L
減価償却相当額	55,097	105,770	50,673	
減価償却費	41,710	83,047	41,337	C/F コンセッション契約及び販売費に係る減価償却費
のれん償却額	3,380	3,380	-	C/F
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	10,007	19,343	9,336	C/F PS契約に係る減価償却費相当額
探鉱費相当額	2,697	13,551	10,854	
探鉱費	1,007	11,642	10,635	P/L コンセッション契約に係る探鉱費
生産物回収勘定引当金繰入額	1,690	1,909	219	P/L PS契約に係る探鉱費相当額等
重要な非現金項目	855	496	△ 359	
法人税等調整額	5,210	△ 1,156	△ 6,366	P/L
為替差損益	△ 4,355	1,652	6,007	C/F
税引後ネット支払利息	479	9,070	8,591	P/L 税引後の支払利息－受取利息
EBIDAX	100,172	200,285	100,113	

6

生産物回収勘定の増減推移

(百万円)	19年3月期第2四半期 (2018年4月～9月)	19年12月期第2四半期 (2019年4月～9月)	備考
生産物回収勘定(期首)	589,098	568,059	
増加:			
探鉱投資	1,613	1,950	主にイラク Block10
開発投資	11,590	15,893	主にACG、カシャガン、コンソ
操業費	7,719	9,138	主にACG、カシャガン
その他	5,647	5,396	
減少:			
コスト回収(CAPEX)	10,007	19,343	主にACG、カシャガン
コスト回収(Non-CAPEX)	20,301	7,853	主にACG、カシャガン
その他	-	2,177	
生産物回収勘定(期末)	585,361	571,063	主にカシャガン
生産物回収勘定引当金	83,345	69,765	

7

原油価格・為替レートのセンシティブティ **INPEX**

■ 油価・為替変動の2019年12月期(9ヵ月決算) 親会社株主に帰属する当期純利益に与える影響額(注1)

油価1ドル上昇(下落)した場合(注2)	<p>期初時点: +38億円(△38億円)</p> <p>以下の通り、期中に変化します。</p> <p>第2四半期期初時点: +19億円(△19億円)</p> <p>第3四半期期初時点: +7億円(△7億円)</p>
為替(円/US\$)1円 円安(円高)になった場合(注3)	+18億円(△18億円)

(注1) 原油価格(Brent)の期中平均価格が1ドル上昇(下落)した場合、為替が1円円安(円高)になった場合の、期初(2019年4月)時点における2019年12月期(9ヵ月決算)の当期純利益に対する影響額を試算したものです。当年度期初時点における財務状況を基に試算したものであり、あくまでも参考値であること、また影響額は、生産量、投資額、コスト回収額などの変動により変わる可能性があり、加えて油価及び為替の水準により、常に同じ影響額になるとは限らない点にご留意ください。

(注2) 油価変動が当期純利益に与える影響であり、原油価格(Brent)の期中平均価格の影響を受けます。尚、各四半期期初時点において、販売価格の一部は確定済のため、当該販売価格の確定割合を考慮し、下記の通り、センシティブティの四半期内訳を、試算しております。

- ✓ 第1四半期期初時点: +38億円 (第1四半期: +7億円、第2四半期: +12億円、第3四半期: +19億円)
- ✓ 第2四半期期初時点: +19億円 (第1四半期: ---、第2四半期: +7億円、第3四半期: +12億円)
- ✓ 第3四半期期初時点: +7億円 (第1四半期: ---、第2四半期: ---、第3四半期: +7億円)

(注3) 為替変動が当期純利益に与える影響であり、期中平均為替レートの影響を受けます。尚、外貨建て資産と外貨建て負債の差から発生する為替評価損益に係るセンシティブティ(前期末と当期末の期末為替レートの差の影響を受ける)は、ほぼ中立化しております。

8

2019年12月期(9ヶ月決算) 販売量・投資額(予想) **INPEX**

2019年12月期予想(9ヶ月)		5月13日時点		11月6日時点		増減		【参考】 第2四半期累計実績	
販売量	原油 (千バレル) ¹	102,695		106,489		3,794		58,868	
	天然ガス (百万cf) ²	345,203 ⁷		365,940		20,737		222,170	
	うち海外分	285,876 ⁷		308,569		22,693		186,345	
	うち国内分	59,327 (1,589百万m ³)		57,371 (1,537百万m ³)		△1,956 (△52百万m ³)		35,825 (959百万m ³)	
	LPG (千バレル) ³	435		476		41		151	
開発投資額 ⁴ (億円)	2,630		2,300		△330		1,550		
探鉱投資額 (億円)	180		180		0		138		
その他 (億円)	40		30		△10		13		
探鉱費および 探鉱関連引当額 ⁵ (億円)	探鉱費 ¹³⁷	193	探鉱費 ¹⁴⁷	189	△4		探鉱費 ¹¹⁶	135	
うち非支配株主持分負担額 ⁶ (億円)	探鉱関連引当額 ⁵⁶	53	探鉱関連引当額 ⁴²	31	△22		探鉱関連引当額 ¹⁹	25	

注) 1 国内原油および石油製品販売量の換算係数として1kl=6.29bblを使用

2 国内天然ガス販売量の換算係数として1m³=37.32cfを使用

3 国内LPG販売量の換算係数として1トン=10.5bblを使用

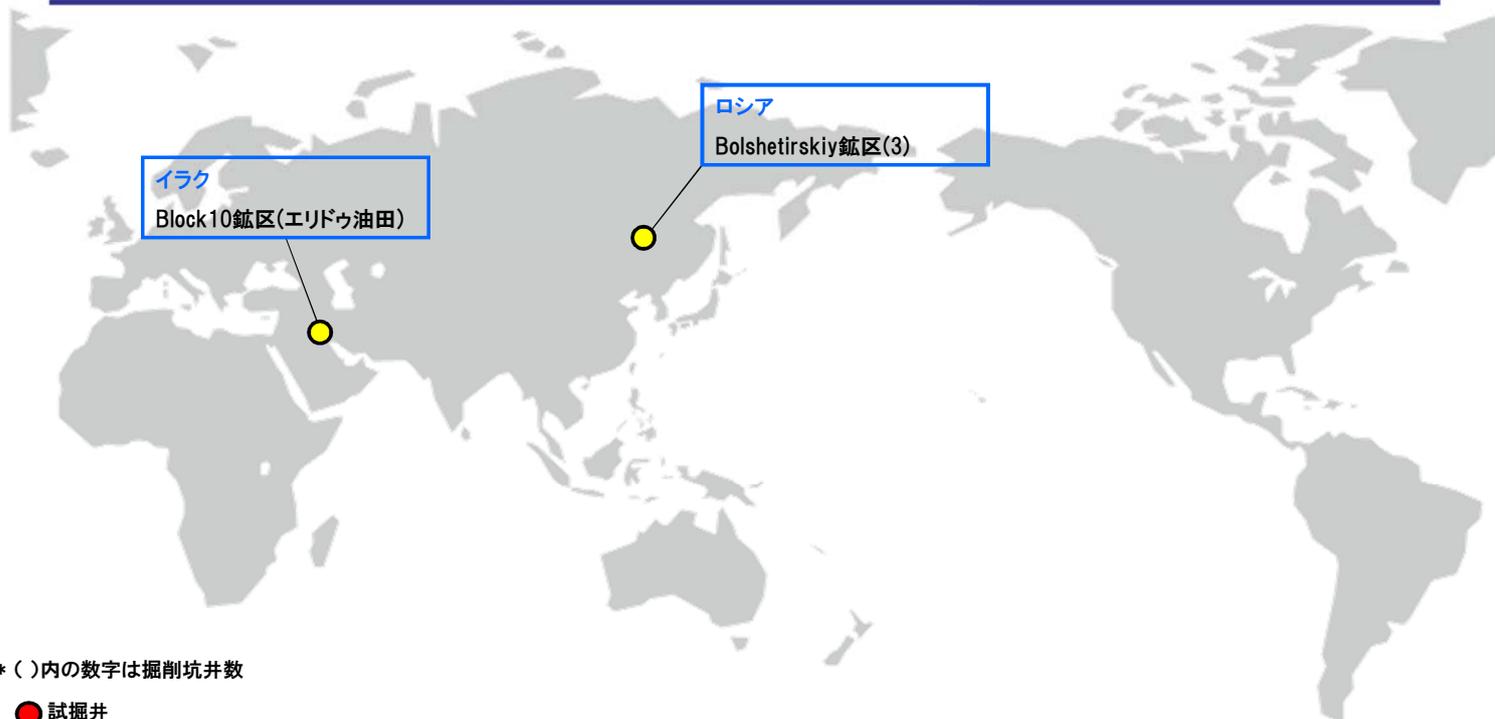
4 開発投資額にはイクス下流事業、権益取得支出を含む

5 損益計算書の生産物回収勘定引当金繰入額+探鉱事業引当金繰入額のうち探鉱関連分

6 非支配株主による増資見合い分等

9 7 一部地域の天然ガス販売量の換算方法の見直しにより、5月13日公表値(天然ガス合計:366,752百万cf、うち海外分:307,425百万cf)を修正

2019年12月期 探鉱計画*



* ()内の数字は掘削坑井数

● 試掘井

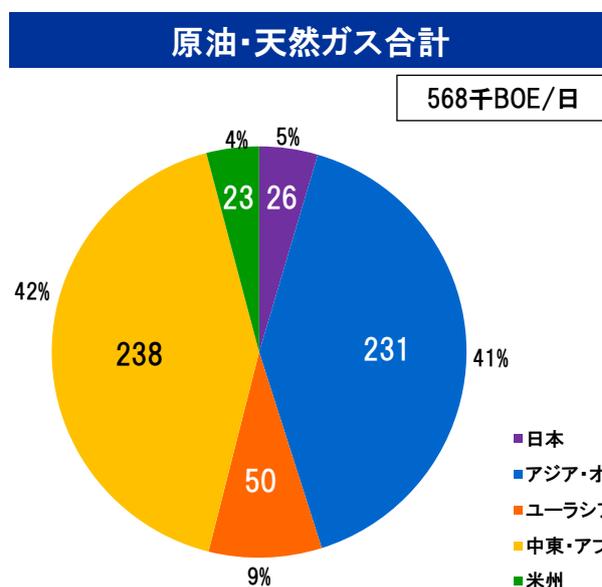
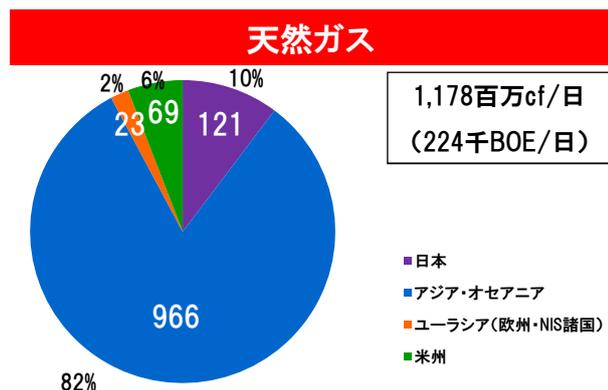
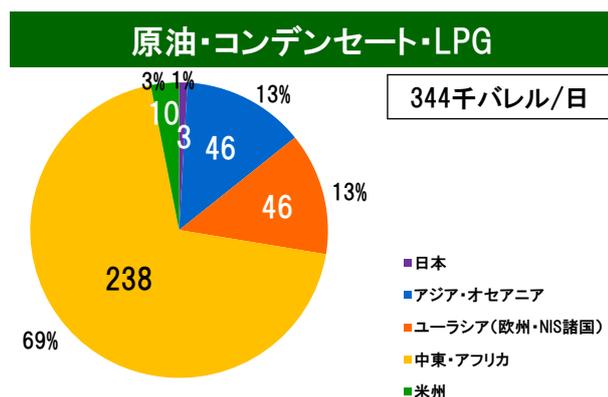
● 探掘井

** 評価井については開示しておりません。

また、守秘義務等の関係上、具体的な探鉱計画(坑井数含む)を開示していないプロジェクトもあります

	探鉱投資額 (億円)	試掘井 (坑)	探掘井 (坑)	2D震探 (km)	3D震探 (km ²)
2019年12月期(計画)	180	0	3	100	7,741
うち作業中・作業済	138	0	0	0	2,509

生産量*(2019年4月-9月)

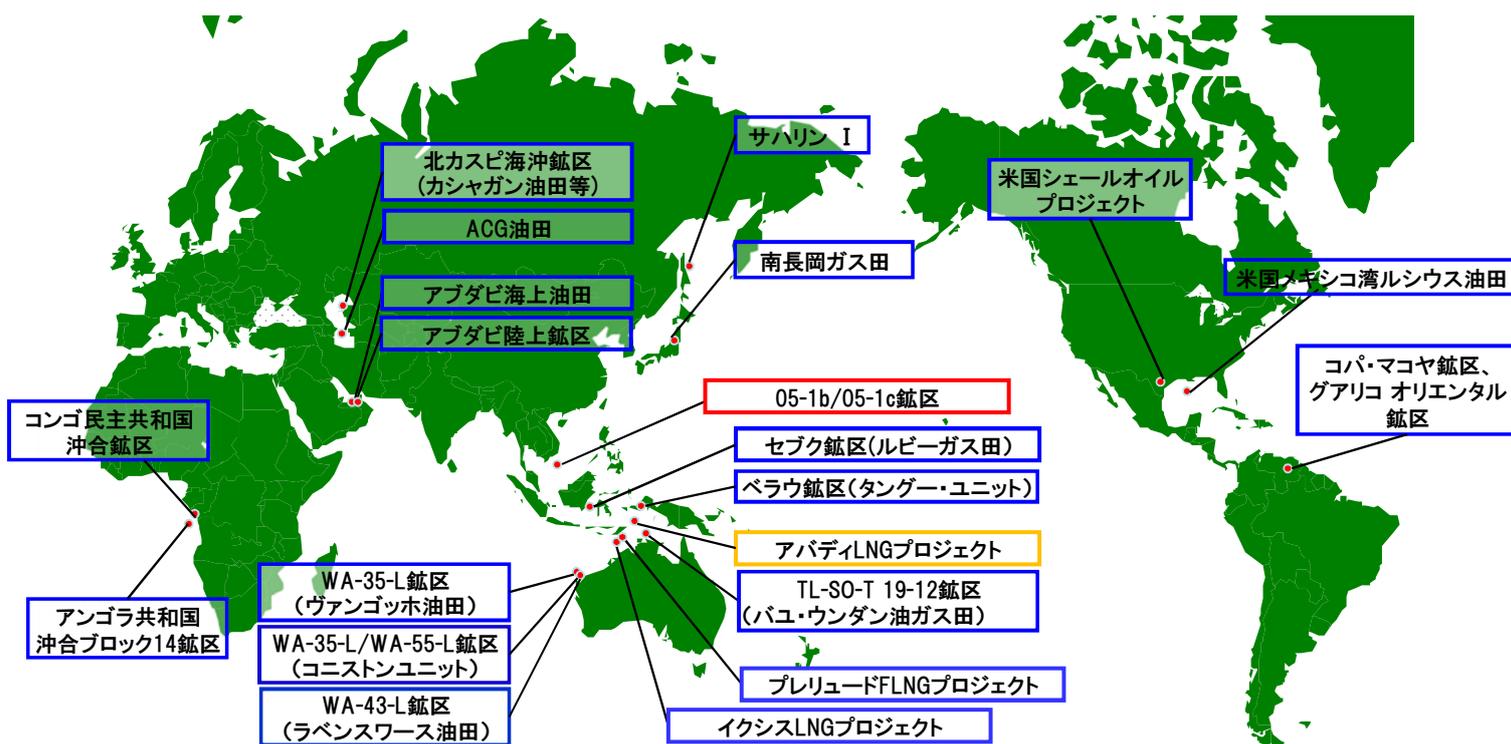


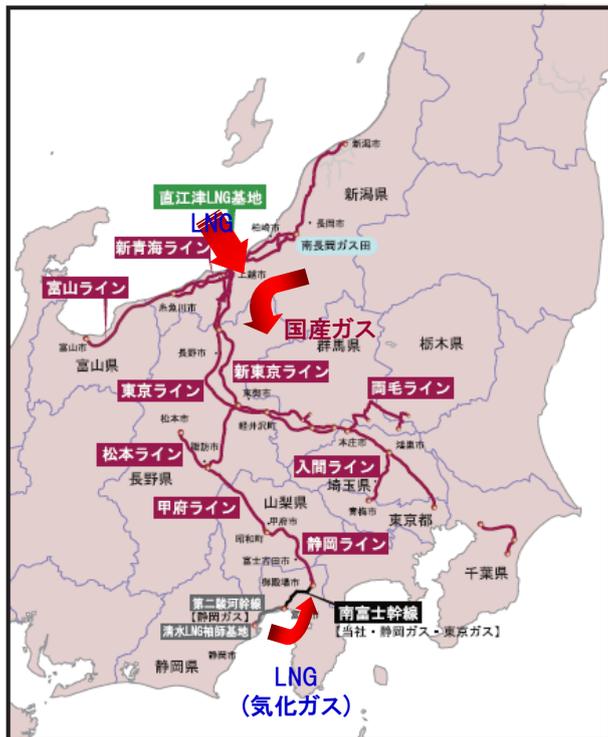
* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。

参考:イクシスLNGプロジェクトからのLNGカーゴ数(実績)については、2019年12月期第2四半期決算発表日(2019年11月6日)までに96カーゴをダーウィンから出荷済みです。

プロジェクト参考データ

主な生産・開発プロジェクト





- 生産量*
 - ・天然ガス：約3.2百万m³/日 (121百万立方フィート/日)**
 - ・原油・コンデンセート：約3千バレル/日
- 天然ガス販売状況
 - ・2019年3月期販売量：21.7億m³**
 - ・2019年12月期(9ヶ月決算)販売量見通し：15.4億m³**
 - ・2020年代前半に25億m³、長期的に年間30億m³の供給見通し
- グローバルガスバリューチェーンの構築
 - ・2013年12月、直江津LNG基地の商業運転開始
 - ・2016年6月、富山ライン完成
 - ・2018年10月、直江津LNG基地にイクシスLNGプロジェクトの第1船が入船

* 国内油田・ガス田の合計(2019年4月～2019年9月平均日産量)
 ** 1m³当たり41.8605MJ換算

セブク鉱区(ルビーガス田) インペックス南マカッサル石油



- 当社権益比率：15%
(オペレーター：PEARLOIL (Mubadala))
- 生産量*
 - 天然ガス**：日量約91百万立方フィート
- PS契約：2027年9月21日まで
- 2010年9月、オペレーターであるPEARLOILと締結した権益譲渡契約のインドネシア政府承認を取得
- 2011年6月、開発移行決定
- 海上生産施設よりマハカム鉱区既存陸上施設へ海底パイプラインにより繋ぎ込み
- 生産ガスの大部分をインドネシア国内肥料工場向けに供給
- 2013年10月、生産開始

* 全鉱区ベース、2019年9月平均日産量

**井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

ベラウ鉱区(タンゲーLNGプロジェクト) MI Berau B.V./MIベラウジャパン

INPEX



* 全鉱区ベース、2019年9月平均日産量

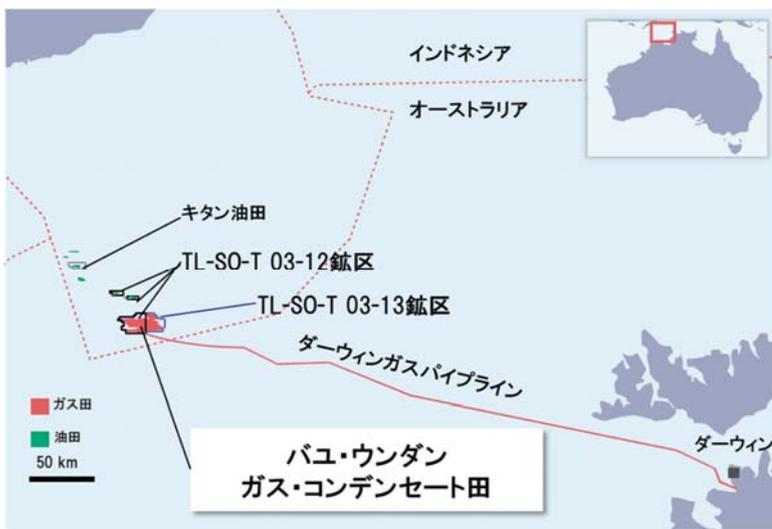
**井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

16

- MI Berau/MIベラウジャパン*:
三菱商事とのJV(当社44%、三菱商事56%)
*MIベラウジャパンはケージーベラウ石油開発に約16.5%出資
- 権益比率:(当社ネット 7.79%)
・MI Berau: タンゲー・ユニット 16.3%
・ケージーベラウ石油開発: タンゲー・ユニット 8.56%
(オペレーター:BP)
- 生産量*
・コンデンセート: 日量約6千バレル
・天然ガス**: 日量約1,153百万立方フィート
- PS契約: 2035年12月31日まで
- LNG生産量: 年間760万トン
- 2009年7月、LNG販売開始
- 2016年7月、拡張プロジェクト(年間380万トンの生産能力を有する第三液化系列を増設)の最終投資決定、現在建設作業中

バユ・ウندان ガス・コンデンセート田(TL-SO-T 19-12鉱区) サウル石油

INPEX



一部暫定領海線を含む

* 全鉱区ベース、2019年9月平均日産量

**井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

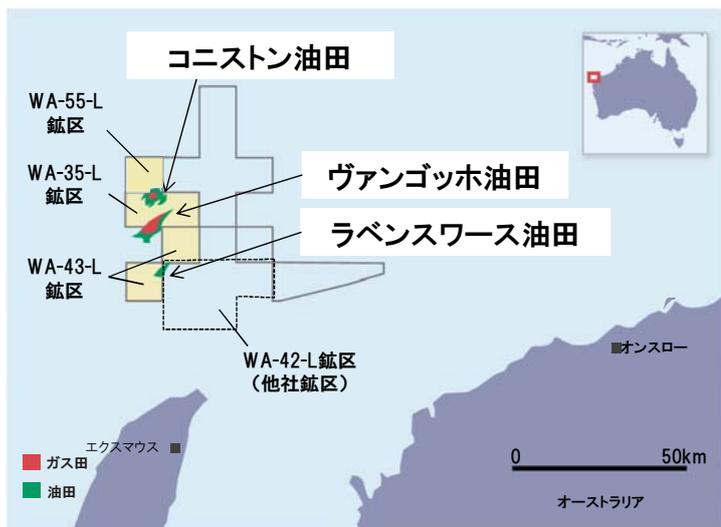
17

- 当社権益比率: 11.378120%
(オペレーター: ConocoPhillips)
- 生産量*
・コンデンセート: 日量約1.5万バレル
・LPG: 日量約0.9万バレル
・天然ガス**: 日量約354百万立方フィート
- PS契約: 2022年2月6日まで
- 2004年2月、コンデンセート/LPG販売開始
- 2005年8月、東京電力(現JERA)/東京ガスとLNG販売契約締結(2006年から17年間、年間300万トン)
- 2006年2月、LNG販売開始
- 2018年3月、東チモール・豪州両政府は、チモール海の領海線に関する新条約に調印。両国間の海上国境の画定を受け、2019年8月に、バユ・ウندان・ガス・コンデンセート田について、旧PSCを終結し、東チモール政府と新たなPSCを締結。(旧PSCと同等条件での事業継続決定済)

ヴァンゴッホ油田/コニストン油田及びラベンスワース油田

アルファ石油

INPEX



ヴァンゴッホ油田(WA-35-L)/コニストン油田(WA-35-LおよびWA-55-L鉱区)

- 当社権益比率:47.499%
(オペレーター: Santos)
- 利権契約: 生産終了まで
- 生産量*:原油: 日量約1.2万バレル
- 2010年2月、ヴァンゴッホ油田にて原油生産開始
- 2015年5月、コニストン油田にて原油生産開始
- 2016年7月、コニストン油田ノバラ構造にて原油生産開始
- 2019年1月、ヴァンゴッホ油田 追加開発井からの原油生産開始

ラベンスワース油田(WA-43-L鉱区)

- 当社権益比率:28.5%
(オペレーター: BHPBP)
- 生産量*:原油: 日量約5千バレル
- 利権契約: 生産終了まで
- 隣接するWA-42-L鉱区の実験施設への繋ぎ込みによる開発
- 2010年8月、生産開始

* 全鉱区ベース、2019年9月平均日産量

イクシスLNGプロジェクト 概要

■ 当社権益比率:66.245%(オペレーター)

■ 生産量*:

- 上流ガス**: 日量約1,480百万立方フィート
- 上流コンデンセート: 日量約5.9万バレル

* 2019年9月平均日量

**井戸元の生産量ではなく下流事業者への販売に対応した数量
(LNG・LPG・プラントコンデンセートの原料として上流から陸上プラントに送られるガス量)

■ 出荷カーゴ数 (生産開始から2019年9月末までの実績)

- LNG:84
- LPG:20
- 上流コンデンセート:24
- プラントコンデンセート:14

■ 生産計画

- プロジェクトライフ:約40年
- LNG:年間約890万トン(生産能力)
- LPG 年間約165万トン
- コンデンセート 日量約10万バレル(ピーク時)

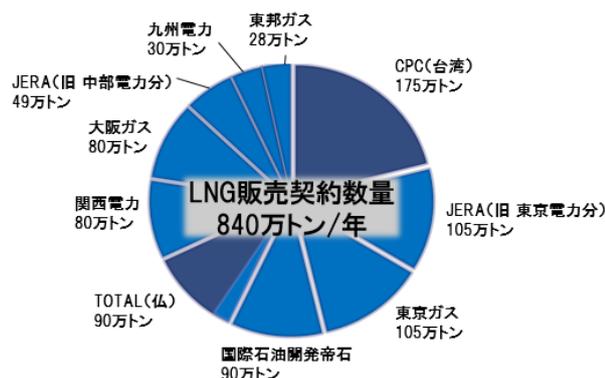
■ 確認埋蔵量

- 約10.11億 BOE(当社権益比率66.245%ベース)

■ 複数の周辺鉱区保有、今後のポテンシャル期待

■ マーケティング

- LNG:年産840万トン分売買契約締結済
- LPG:当社権益全量等の売買契約締結済



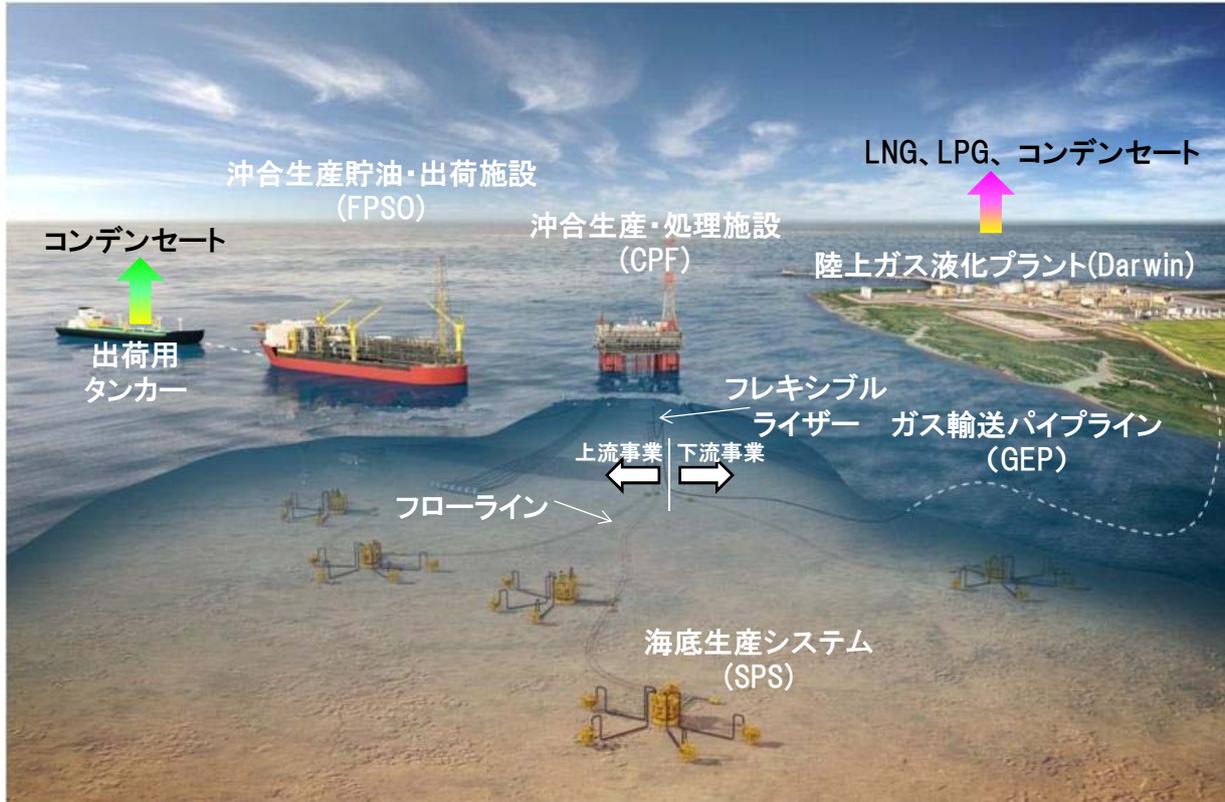
■ ファイナンス

- 2012年12月、総額200億米ドルのプロジェクトファイナンスに係る融資関連契約に調印

■ 開発作業時の主要EPC契約

- 上流事業
 - ・沖合生産・処理施設(CPF): Samsung Heavy Industries(韓)
 - ・沖合生産貯油・出荷施設(FPSO): Daewoo Shipbuilding & Marine Engineering (韓)
 - ・海底生産システム(SPS): GE Oil & Gas(米)
- 下流事業
 - ・陸上LNGプラント:日揮、千代田化工、KBR(社)の企業連合
 - ・ガス輸送パイプライン(GEP):Saipem(伊)・三井物産・住友商事・メタルワン
 - ・ダーウィン湾内浚渫作業: Van Oord(蘭)
 - ・計装・制御システム: 横河電機(上流施設も含む)

イクシスLNGプロジェクト全体像



イクシスLNGプロジェクト FIDから生産・出荷開始までの軌跡

■ 最終投資決定(FID)以降の軌跡

主なマイルストーン	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
FID	●						
(沖合施設・生産井関連)							
・ CPF/FPSOの起工式		●					
・ CPF/FPSOの本格的な組み立て作業開始			●				
・ FPSOの進水			●				
・ ガス輸送パイプラインの敷設完了				●			
・ 生産井の掘削開始				●			
・ 海底フローラインの敷設完了					●		
・ CPF/FPSOの出航・イクシスフィールド到着・係留・接続完了						●	
・ CPF/FPSO等の試運転開始						●	
・ CPF/FPSO/海底生産システムの生産開始に必要な試運転完了							●
(陸上施設関連)							
・ 陸上ガス液化プラントの起工式	●						
・ 陸上ガス液化プラントのモジュール、棧橋、タンク等の建造開始		●					
・ ダーウィン湾内の浚渫作業完了			●				
・ 製品出荷棧橋の完成					●		
・ 全モジュールの完成・搬入完了					●		
・ 全製品タンクの水張試験完了						●	
・ 発電施設稼働開始						●	
・ 陸上ガス液化プラント第1トレインの生産開始に必要な試運転完了							●
(プロジェクト全般)							
・ 生産ライセンスの取得、プロジェクト・ファイナンス契約調印	●						
・ 建造施設への損害保険手配の完了		●					
・ LNG輸送に係るLNG船の新規造船・保有及び定期備船契約の締結		●					
・ プロジェクト進捗50%の達成			●				
・ LNG生産能力の増大(年産約840万トン⇒約890万トン)				●			
・ アストモスエネルギー㈱とのLPG販売に関する基本合意						●	
・ 直江津LNG基地向けLNG船・台湾CPC向けLNG船の命名式						●	
生産井からのガス生産開始							●
コンデンセート出荷開始、LNG出荷開始							●

イクシスLNGプロジェクト 沖合生産・処理施設(CPF)

INPEX



22

イクシスLNGプロジェクト 沖合生産・貯油出荷施設(FPSO)

INPEX



23

イクシスLNGプロジェクト 陸上ガス液化プラント

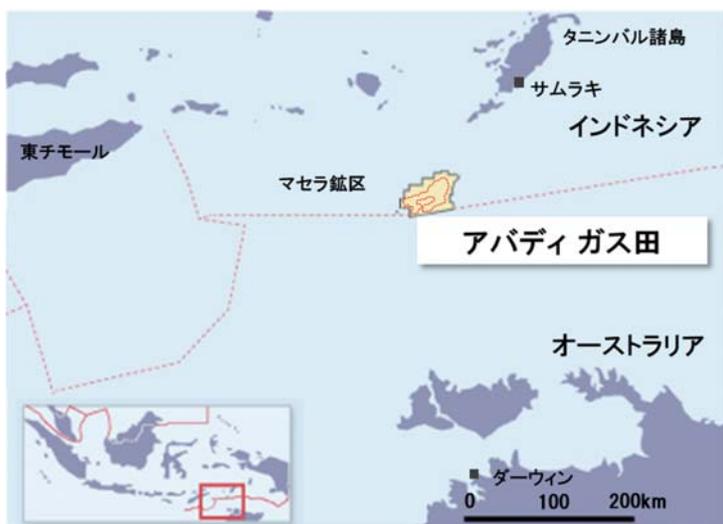
INPEX



24

アバディLNGプロジェクト

INPEX



一部暫定領海線を含む

- 2018年3月から10月に年産950万トン規模を想定する陸上LNGのPre-FEED(概念設計)作業を実施
- 本年6月、陸上LNGIによる開発を前提とした改定開発計画をインドネシア政府当局へ提出、7月に承認を取得
- 2020年代後半の生産開始を目指す
- 生産規模：
 - ①天然ガス総生産量(LNG換算)年産1,050万トン
 - LNG年産950万トン規模
 - 鉱区周辺地域の現地需要向けにパイプラインガス供給を予定
 - ②コンデンセート日量最大約 3.5 万バレル規模
- 生産分与契約に基づき10%の参加権益をインドネシア政府の指定するインドネシア企業に譲渡する予定
- 生産分与契約(PSC): 2055年11月15日まで(2019年10月延長契約等を締結)
- 現在、基本設計(FEED)作業開始の準備作業中

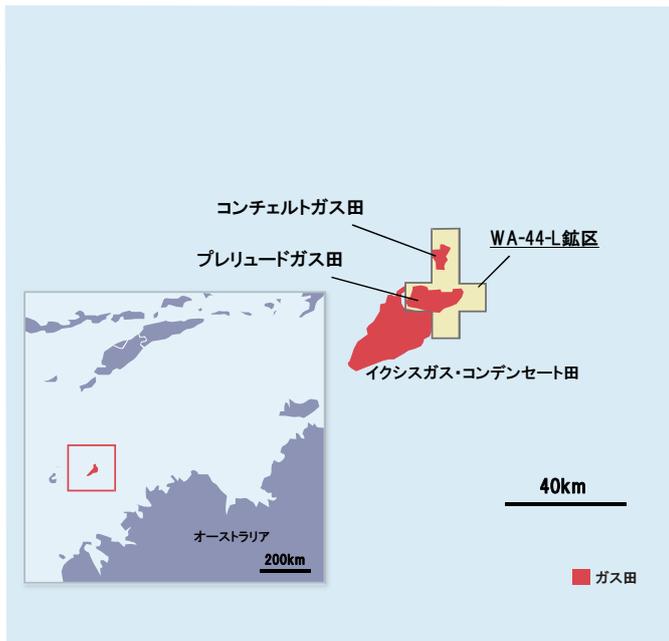
- 権益比率: 当社(オペレーター)65%、Shell35%
- 開発準備中

25

プレリウドFLNGプロジェクト

INPEX Oil & Gas Australia Pty Ltd

INPEX



- 権益比率: 17.5%(オペレーター: Shell)
- 利権契約: 生産終了まで
- 埋蔵量: 天然ガス約3兆cf
(プレリウドガス田およびコンチェルトガス田)
- 生産量:
 - ・LNG 年間360万トン
 - ・LPG 年間約40万トン(ピーク時)
 - ・コンデンセート 年間130万トン(ピーク時)
- 2011年5月に最終投資決定
- 2018年12月、生産井からのガス生産を開始
- 2019年3月、コンデンセート出荷開始
- 2019年6月、LNG出荷開始
- 2019年7月、LPG出荷開始
- 当社権益相当分年間約63万トンのLNGの売買について、JERA(年間約56万トン)、静岡ガス(年間約7万トン)それぞれと合意

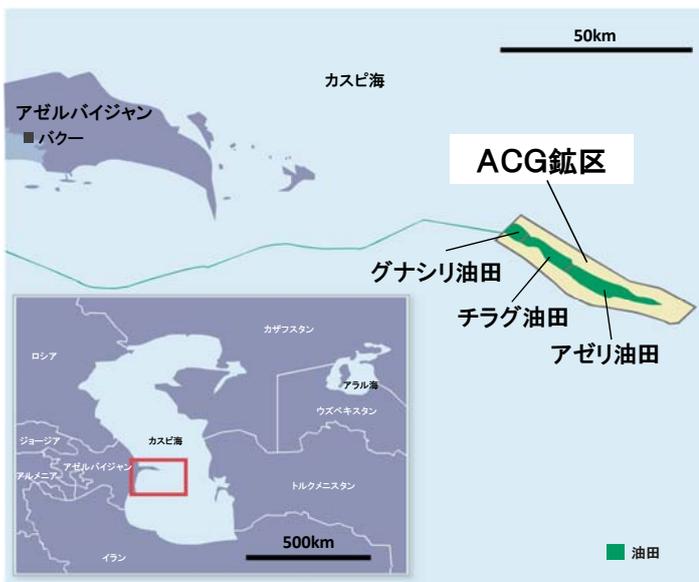


26 FLNG船

ACG油田

インペックス南西カスピ海石油

INPEX

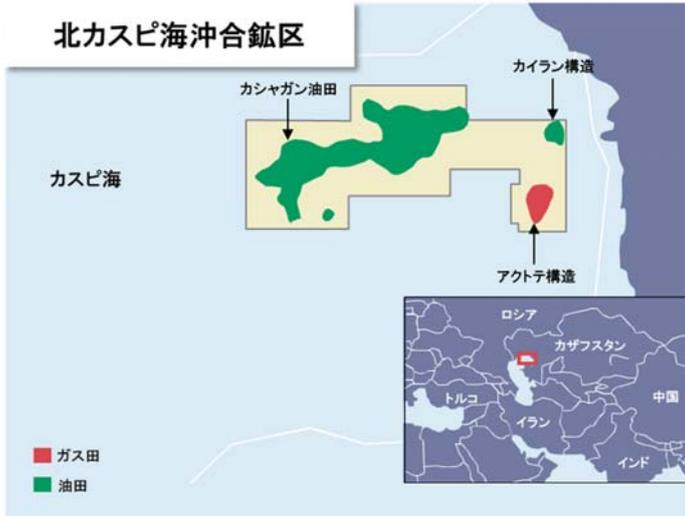


- 当社権益比率: 9.3072% *
(オペレーター: BP)
- 生産量: 平均日量52.6万バレル**
- PS契約: 2049年まで***
- チラグ油田: 1997年生産開始
- アゼリ油田中央部: 2005年2月生産開始
- アゼリ油田西部: 2005年12月生産開始
- アゼリ油田東部: 2006年10月生産開始
- グナシリ油田深海部: 2008年4月生産開始
- チラグ油田西部: 2014年1月生産開始
- アゼリ油田中東部: 2019年4月新規生産プラットフォーム建設決定

* PS契約延長に伴い、当社権益比率は9.3072%へ変更。
延長PS契約は2018年1月1日発効。
** 全鉱区ベース、2019年上半期平均日産量。
*** 2017年に、PS契約の2049年末までの延長が合意された。

カシャガン油田ほか インペックス北カスピ海石油

INPEX



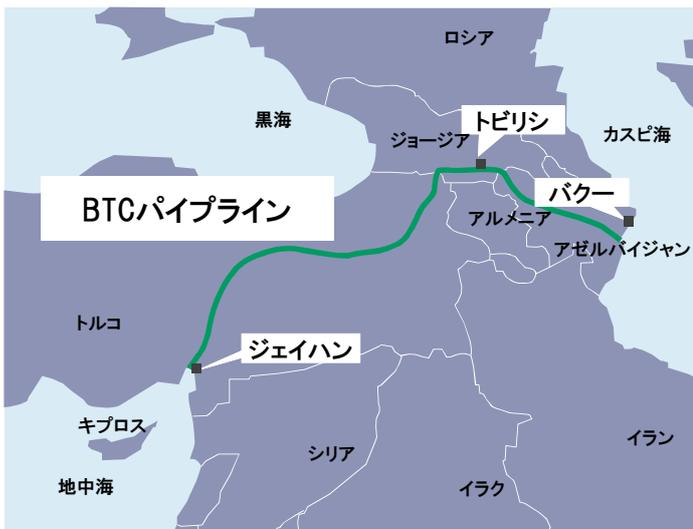
- 当社権益比率: 7.56%(オペレーター: NCOC(North Caspian Operating Company))
- PS契約: カシャガン油田 - 2021年末まで*
- 原油生産量**: 日量約39.4万バレル
- 生産日量37万バレル達成済。生産日量45万バレルを目指し作業中
- 2016年10月より原油出荷を開始
- アクトテ/カイルンの2構造の評価期間を5年間延長して開発シナリオ検討を継続することについて、カザフスタン政府と合意。

*現行のPSA条件にて10年×2回の延長(2041年まで)が可能

**全鉱区ベース、2019年9月平均日産量

BTC(BakuTbilisi Ceyhan)パイプラインプロジェクト INPEX BTC Pipeline, Ltd.

INPEX



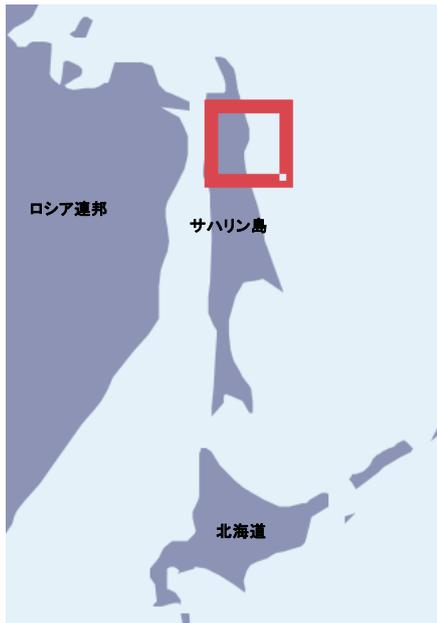
- 当社権益比率: 2.5%(オペレーター:BP)
- 通油量: 日量約66.2万バレル*
- 2002年10月、当社、参加権益2.5%取得
- 2006年6月、ジェイハンターミナルから原油出荷開始
- 2009年3月、輸送能力日量120万バレルまでの拡張作業を完了
- 2010年9月13日、累計10億バレル出荷を達成
- 2014年8月11日、累計20億バレル出荷を達成
- 2018年7月17日、累計30億バレル出荷を達成

* 2019年上半期平均通油量

サハリン-1

サハリン石油ガス開発

INPEX



- サハリン石油ガス開発(SODECO):当社保有株式約6.08%
- SODECOのサハリン-1における権益比率: 30.0%
- オペレーター: Exxon Neftegas Limited
- 2005年10月、チャイウオより生産開始、2006年10月原油輸出開始
- 2010年9月、オドプトより生産開始
- 2015年1月、アルクトン・ダギより生産開始
- 天然ガスをロシア国内に供給中

30

東シベリアINKプロジェクト

日本南サハ石油

INPEX



- 日本南サハ石油(JASSOC):当社保有株式約25.16%
- JASSOCの東シベリアINKプロジェクト(INK ZAPAD社への出資)における株式保有: 49.0%
- 生産量*:原油日量約5.6万バレル
- オペレーター: INK ZAPAD社
- ライセンス契約: 25年間(2031年まで)
- 2014年11月、イチョディンスコエ油田より生産開始

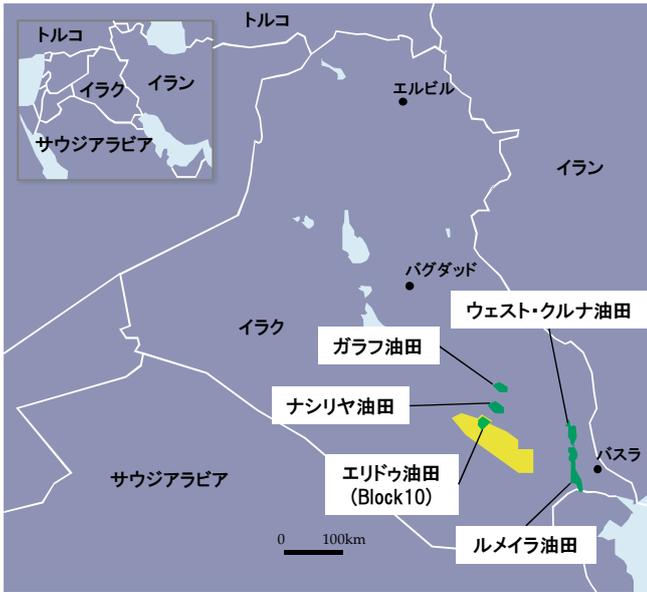
* 全鉱区ベース、2019年9月平均日産量

31

イラク エリドゥ油田(Block10)

インペックス南イラク石油

INPEX



イラクBlock10ロケーション

- 当社権益比率:40%
(オペレーター:ルクオイル)
- 鉱区取得:2012年12月
(イラク共和国第4次公開入札)
- EDPSC*: 探鉱期間 - 9年間**
(2021年12月2日まで)
開発生産期間 - 20年間***
- 2017年2月、試掘第1号井において油層を発見。その後、評価井を掘削し、油層の広がりを確認している。
- 油層が鉱区外へ伸長していると予測されたため、鉱区エリアの拡張申請を提出し、2017年11月に承認された。
- 商業開発の可能性を検討するため、探鉱および評価作業を実施中。

* 探鉱、開発、生産サービス契約

** 更なる探鉱・評価作業を実施するため、EDPSCに基づき、探鉱期間を4年間延長。

***開発・生産期間は5年間の延長が可能。

32

ノルウェー領大陸棚プロジェクト

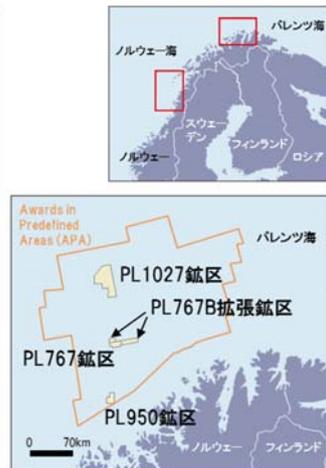
INPEX Norge AS

INPEX



ノルウェー海北部PL 1016鉱区

- 当社権益比率:40% (オペレーター:OMV Norge AS)
- 鉱区取得:2019年3月1日
- コンセッション契約:探鉱・評価期間7年間(2026年まで)
開発生産期間25年間
- 2018年8月:2018APAラウンドにおいて単独入札し、2018年1月に落札



バレンツ海西部PL 767鉱区

- 当社権益比率:40% (オペレーター:Lundin Norway AS)
- 鉱区取得:2017年1月1日 (Bayerngas Norge AS社から取得)
- コンセッション契約:探鉱・評価期間8年間 (2023年まで1年延長済み)
開発生産期間25年間
- 2018年12月-2019年2月: 試掘井7121/1-2 S掘削

バレンツ海西部PL 767B鉱区 (PL 767鉱区拡張部)

- 当社権益比率:40% (オペレーター:Lundin Norway AS)
- 鉱区取得:2019年3月1日
- コンセッション契約:探鉱・評価期間4年間(2023年まで)
開発生産期間25年間
- 2018年8月:2018APAラウンドにおいてLundin Norway AS社と共に共同入札し、2019年1月に落札

バレンツ海西部PL 950鉱区

- 当社権益比率:30% (オペレーター:Lundin Norway AS)
- 鉱区取得:2018年3月2日
- コンセッション契約:探鉱・評価期間7年間(2025年まで)
開発生産期間25年間
- 2017年8月:2017APAラウンドにおいてLundin Norway AS社と共に共同入札し、2018年1月に落札

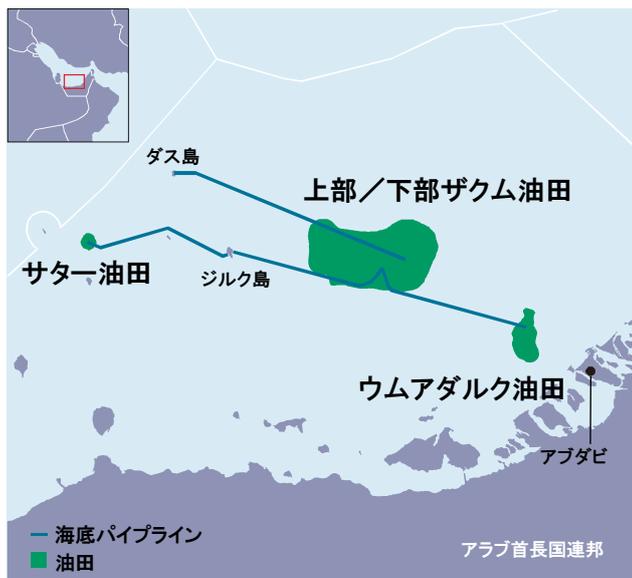
バレンツ海西部PL 1027鉱区

- 当社権益比率:20% (オペレーター:Lundin Norway AS)
- 鉱区取得:2019年3月1日
- コンセッション契約:探鉱・評価期間8年間(2027年まで)
開発生産期間25年間
- 2018年8月:2018APAラウンドにおいて単独入札し、2018年1月に落札

33

アブダビ海上油田

ジャパン石油開発(JODCO) / JODCO Lower Zakum Limited **INPEX**

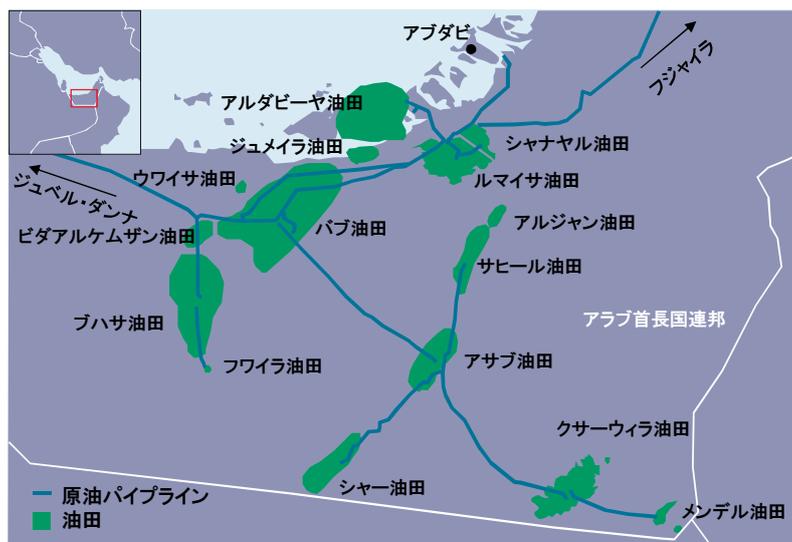


- 上部ザクム油田(JODCO)
 - 当社権益比率:12%(オペレーター:ADNOC Offshore)
 - 利権契約:2051年まで
- 下部ザクム油田 (JODCO Lower Zakum Limited)
 - 当社権益比率:10%(オペレーター:ADNOC Offshore)
 - 利権契約:2058年まで
- サター油田・ウムアダルク油田(JODCO)
 - 当社権益比率:40%(オペレーター:ADNOC Offshore)
 - 利権契約:2043年まで

アブダビ陸上鉱区

JODCO Onshore Limited

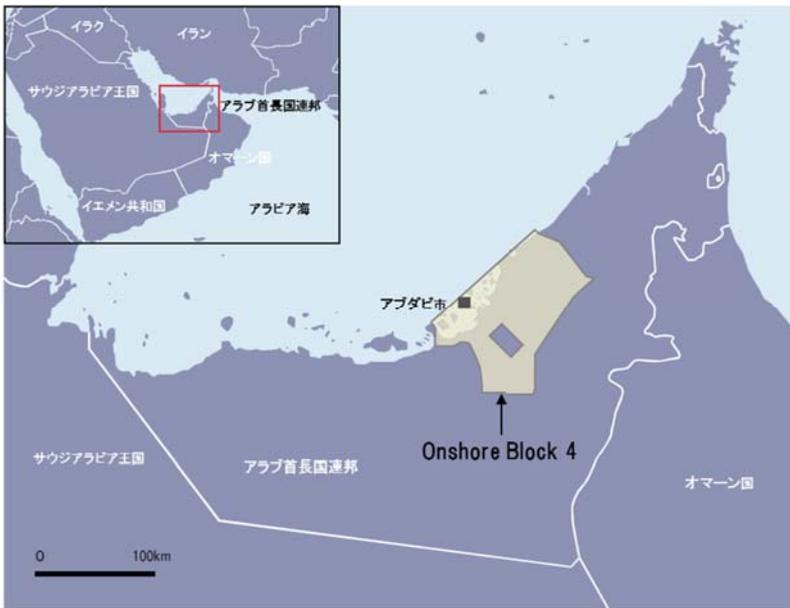
INPEX



- 当社権益比率:5%
(オペレーター:ADNOC Onshore*)
- 利権契約:2054年まで

*権益保有者が株主である操業会社。JODCO Onshore Limitedから5%を出資。

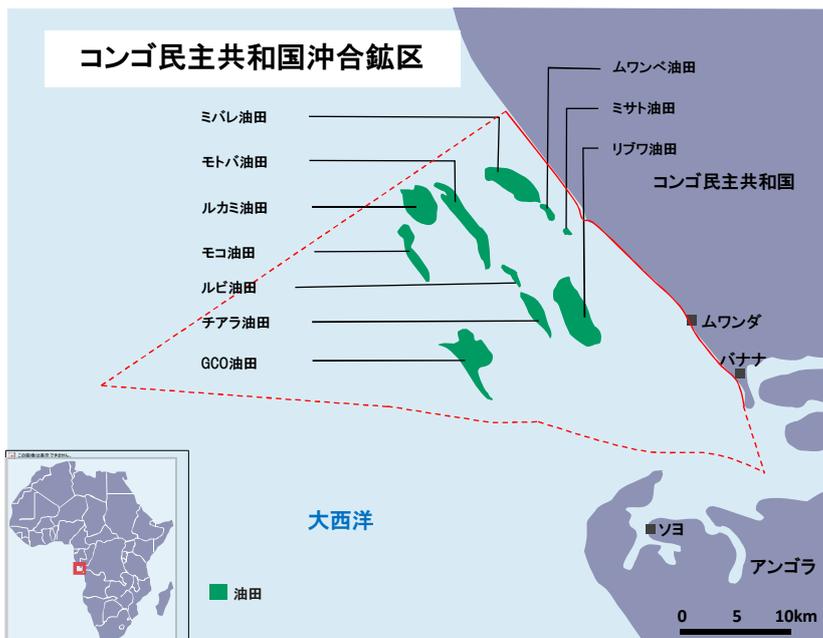
アブダビ探鉱区 Onshore Block 4 JODCO Exploration Limited



- 当社権益比率:100%
(オペレーター:JODCO Exploration Limited)

- 鉱区面積約6,116平方キロメートル

コンゴ民主共和国沖合鉱区 帝石コンゴ石油

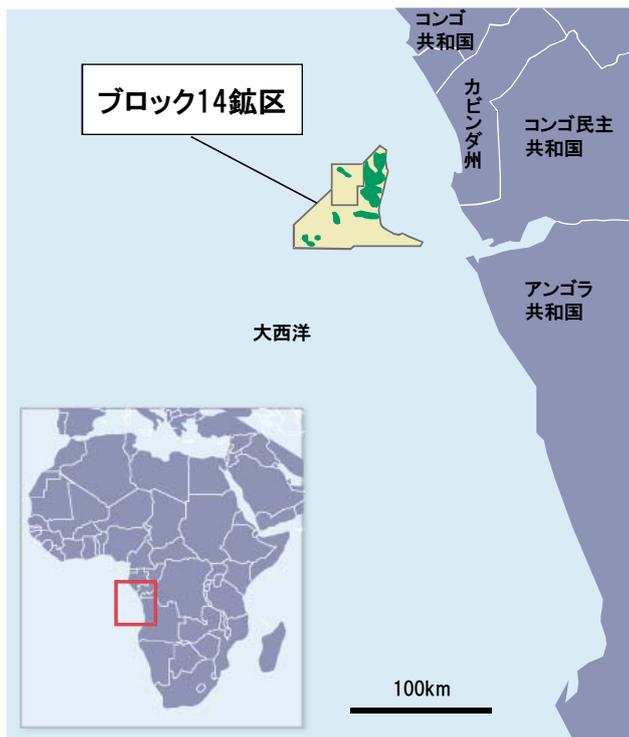


- 当社権益比率:32.28%
(オペレーター:ペレンコ)
- コンセッション契約(1969-2043年)
- 生産開始:1975年
- 生産量*: 日量約1.4万バレル

* 全鉱区ベース、2019年9月平均日産量

アンゴラ共和国沖合ブロック14鉱区 INPEX Angola Block14 Ltd.

INPEX



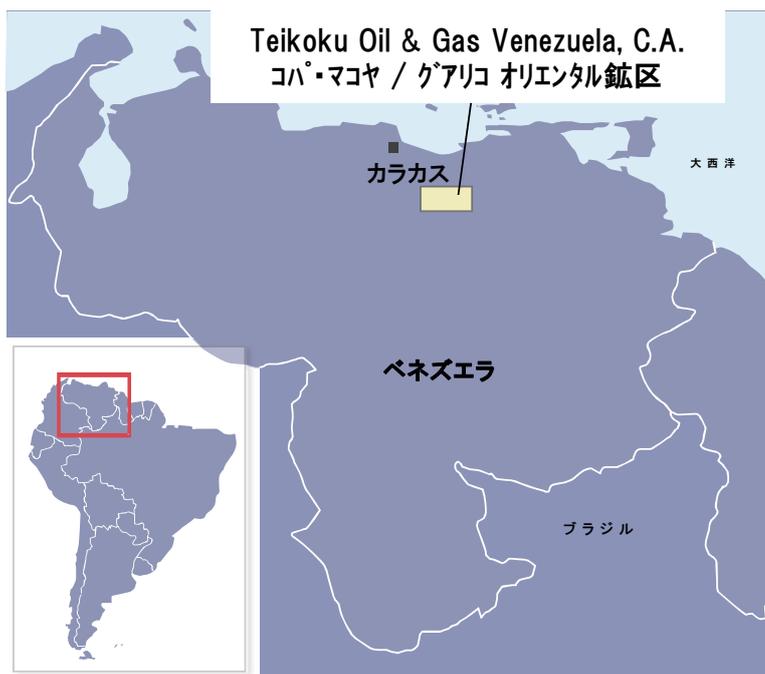
- 当社権益比率:9.998%(オペレーター: Chevron)
- 生産量*: 日量約1.5万バレル
- PS契約:
 - Kuito DA: 2023年まで
 - BBLT DA: 2027年まで
 - TL DA: 2028年まで
 - Lianzi: 2031年まで

* 全鉱区ベース、2019年9月平均日産量

38

ベネズエラ プロジェクト Teikoku Oil & Gas Venezuela, C.A.ほか

INPEX



- コパ・マコヤ (ガス事業)/
グアリコ オリエンタル鉱区(原油事業)
- ジョイントベンチャー出資比率
 - ・ガス事業:70%、原油事業:30%
- ジョイントベンチャー契約
 - ・2006-2026年
- 生産量*
 - ・原油: 日量約0.7千バレル
 - ・天然ガス**: 日量約44百万立方フィート

* 全鉱区ベース、2019年9月平均日産量

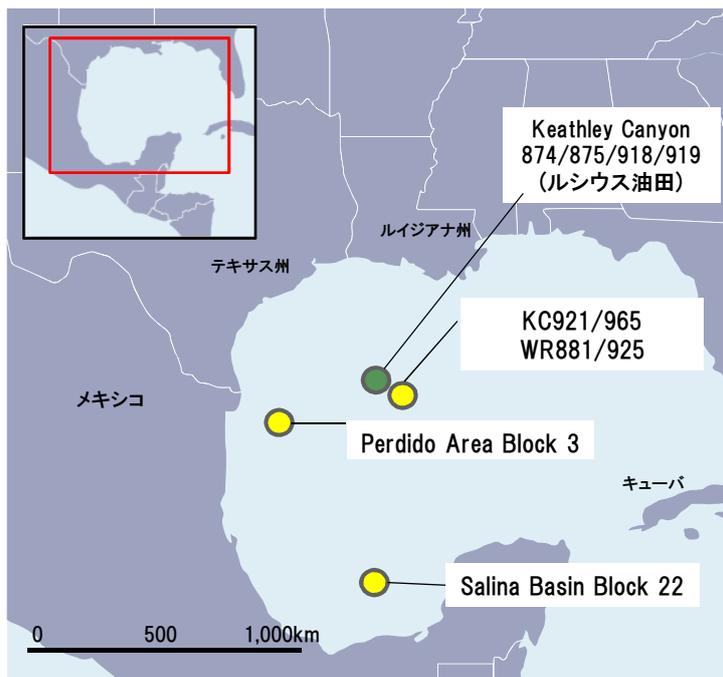
**井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

39

メキシコ湾周辺 プロジェクト

INPEX Americas, Inc. / INPEX E&P Mexico, S.A. de C.V.ほか

INPEX



ルシウス油田
(INPEX Americas, Inc.)

- リース契約
- 当社権益比率: 7.75309% (オペレーター: Occidental)
- 2015年1月 原油及び天然ガスの生産開始
- 2017年9月に、ルシウス油田とルシウス油田の南側に位置するハドリアンノース(HN)油田のプロジェクトパートナーはユニタイゼーションに係る改定UPA (Unit Participating Agreement)を締結
- 2019年4月 HN油田より生産開始
- 生産量*

 - 原油: 日量約1.4万バレル
 - 天然ガス**: 日量14百万立方フィート

キースリーキャニオン921/965、ウォーカーリッジ881/925鉱区

- リース契約
- 当社権益比率: 40% (オペレーター: Occidental)

メキシコ領メキシコ湾北部海域 Block3鉱区
(INPEX E&P Mexico PB-03, S.A. de C.V.)

- ライセンス契約
- 当社権益比率: 33.3333% (オペレーター: Chevron)

メキシコ領メキシコ湾南部海域 Block22鉱区
(INPEX E&P Mexico, S.A. de C.V.)

- ライセンス契約
- 当社権益比率: 35% (オペレーター: Chevron)

*全鉱区ベース、2019年9月平均日産量(downtimeは除く)

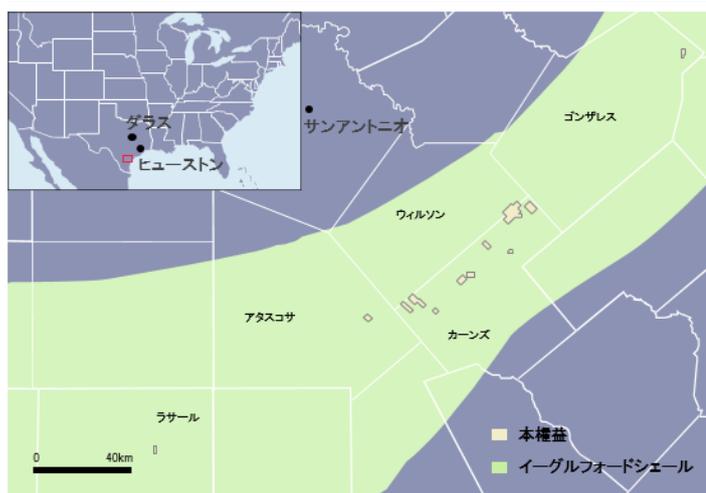
** 井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

40

米国 シェールオイルプロジェクト

INPEX Eagle Ford, LLC

INPEX



- 権益比率: 当社(オペレーター)100%*
- リース契約
- リース権: 約9,808ネットエーカー (約40平方キロメートル)
- 生産量** : 日量約1万バレル
- 2019年3月: GulfTex Energy社が米国テキサス州イーグルフォードシェールにおいて保有・操業するシェールオイル生産・開発権益を取得することに同社と合意。



掘削作業現場

* 一部を除き、当社がオペレーター
**井戸元の生産量ではなく、当社ネット生産量 (2019年9月平均日産量)

主要会社一覧及び石油契約①*

会社名	鉱区名又はプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	ステージ
日本					
・国際石油開発帝石	南長岡ガス田ほか**	日本	コンセッション	-	生産中
アジア/オセアニア					
・インベックス南マカッサル石油	セブク鉱区(ルビーガス田)	インドネシア	PS	100%	生産中
・MI Berau B.V.	ベラウ鉱区(タンゲー-LNG)	インドネシア	PS	44%	生産中
・インベックスマセラアラフラ海石油	マセラ鉱区(アバディLNG)**	インドネシア	PS	51.9%	開発準備作業中
・帝石コンソン石油	05-1b / 05-1c鉱区	ベトナム	PS	100%	開発中
・サウル石油	バユ・ウンダン	東チモール民主共和国	PS	100%	生産中
・INPEX Browse E&P Pty Ltd	WA-285-P**ほか	オーストラリア	コンセッション	100%	探鉱作業中
・INPEX Ichthys Pty Ltd	WA-50-L及びWA-51-L(イクシス)**	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中
・Ichthys LNG Pty Ltd	イクシスプロジェクト下流事業**	オーストラリア	-	66.245%	生産中
・INPEX Oil & Gas Australia Pty Ltd	プレリユードFLNGプロジェクト	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中
・アルファ石油	ヴァンゴッホ油田/ヨニストンユニット	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中
・アルファ石油	ラベンスワース油田	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中

注：* 2019年9月末時点
** オペレータープロジェクト

42

主要会社一覧及び石油契約②*

会社名	鉱区名又はプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	ステージ
ユーラシア					
・インベックス南西カスピ海石油	ACG油田	アゼルバイジャン	PS	51%	生産中
・インベックス北カスピ海石油	カシャガン油田	カザフスタン	PS	51%	生産中
中東/アフリカ					
・ジャパン石油開発	上部ザクム油田等	アラブ首長国連邦	コンセッション	100%	生産中
・JODCO Lower Zakum Limited	下部ザクム油田	アラブ首長国連邦	コンセッション	100%	生産中
・JODCO Onshore Limited	陸上鉱区	アラブ首長国連邦	コンセッション	51%	生産中
・帝石コンゴ石油	コンゴ民主共和国沖合鉱区	コンゴ民主共和国	コンセッション	100%	生産中
・INPEX Angola Block14	アンゴラ共和国沖合ブロック14鉱区	アンゴラ共和国	PS	100%	生産中
米州					
・Teikoku Oil & Gas Venezuela	コパ・マコヤ**/グアノコリエントアル	ベネズエラ	コンセッション	100%	生産中
・INPEX Americas, Inc.	ルシウス油田	米国	コンセッション	100%	生産中
・INPEX Eagle Ford, LLC	イーグルフォードシェールオイル**	米国	コンセッション	100%***	生産中

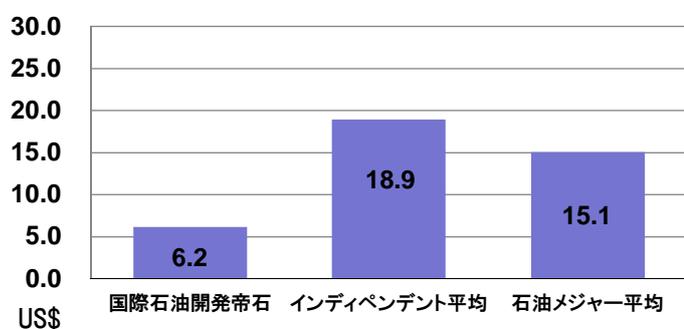
注：* 2019年9月末時点
** オペレータープロジェクト
*** 一部を除き、当社がオペレーター

43

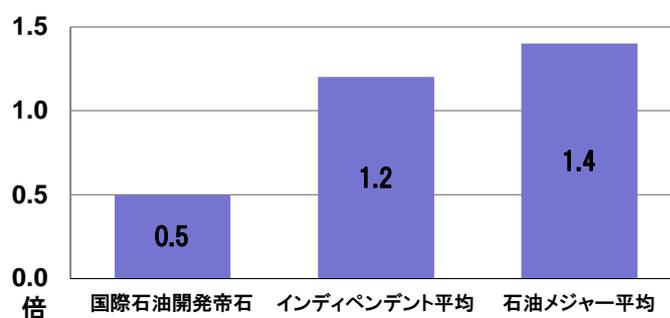
その他

当社Valuation指標

EV／確認埋蔵量*



PBR**



* EV(企業総価値)／確認埋蔵量 = (時価総額 + 総有利子負債 - 預金及び現金同等物 + 非支配株主持分)／確認埋蔵量。時価総額は2019年9月末時点、財務数値及び確認埋蔵量は、当社は2019年9月末時点、インディペンデント、石油メジャーは2019年6月末時点数値を使用。財務数値、確認埋蔵量は各社開示資料より。

** PBR = 株価 / 一株当たり純資産。時価総額は2019年9月末時点、財務数値は当社は2019年9月末時点、インディペンデント、石油メジャーは2019年6月末時点数値を使用。財務数値は各社開示資料より。

3つの事業目標



①石油・天然ガス
上流事業の持続的成長

国際大手石油会社
トップ10へ

- ✓ 量的(Volume)、質的(Value)な成長
- ✓ Volume: 生産量日量100万バレルを展望、埋蔵量を持続的に拡大
- ✓ Value: 純利益・営業CFを大幅に拡大、資本の効率性を向上



②グローバルガス
バリューチェーンの構築

アジア・オセアニアにおける
ガス開発・供給の
主要プレイヤーへ

- ✓ アジア等の成長市場における需要開拓
- ✓ 国内ガス供給量30億m³超に拡大
- ✓ 上流ガス権益の価値最大化
- ✓ 需給調整・トレーディング機能の維持・強化



③再生可能エネルギーの
取り組みの強化

ポートフォリオの
1割へ

- ✓ 気候変動への積極的対応
- ✓ シナジーのある地熱開発に加え、風力発電事業等への参入拡大
- ✓ 温室効果ガス削減に関する技術研究・開発の継続

基盤整備 CSR経営の実践、特に気候変動対応の推進+INPEXの強みを活用

事業活動の低炭素化、ESGの取り組み強化、持続可能な開発目標(SDGs)の実現に貢献
プロジェクトが生み出すキャッシュを株主還元・成長投資に配分

持続的な企業価値の向上

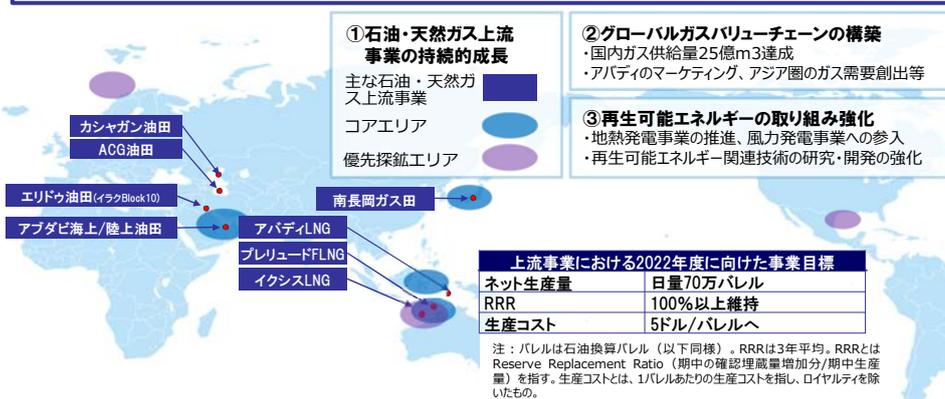
中期経営計画 2018-2022

5年間の資金配分*



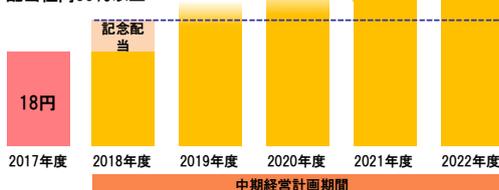
注: *原油価格60ドル、為替110円前提。イクシス下流会社含む
**事業の主な取り組み①の①~③に係る全ての支出

事業の主な取り組み



株主還元の強化

- ✓ 2018年度:イクシスLNGプロジェクトの生産及び出荷後、記念配当実施の方針
- ✓ 中計期間中、以下の還元方針
 - 1株18円 + 上記記念配当の合計額を下回らないよう安定的に配当
 - 業績の成長に応じて段階的に一株当たり配当金を引き上げ
 - 配当性向30%以上



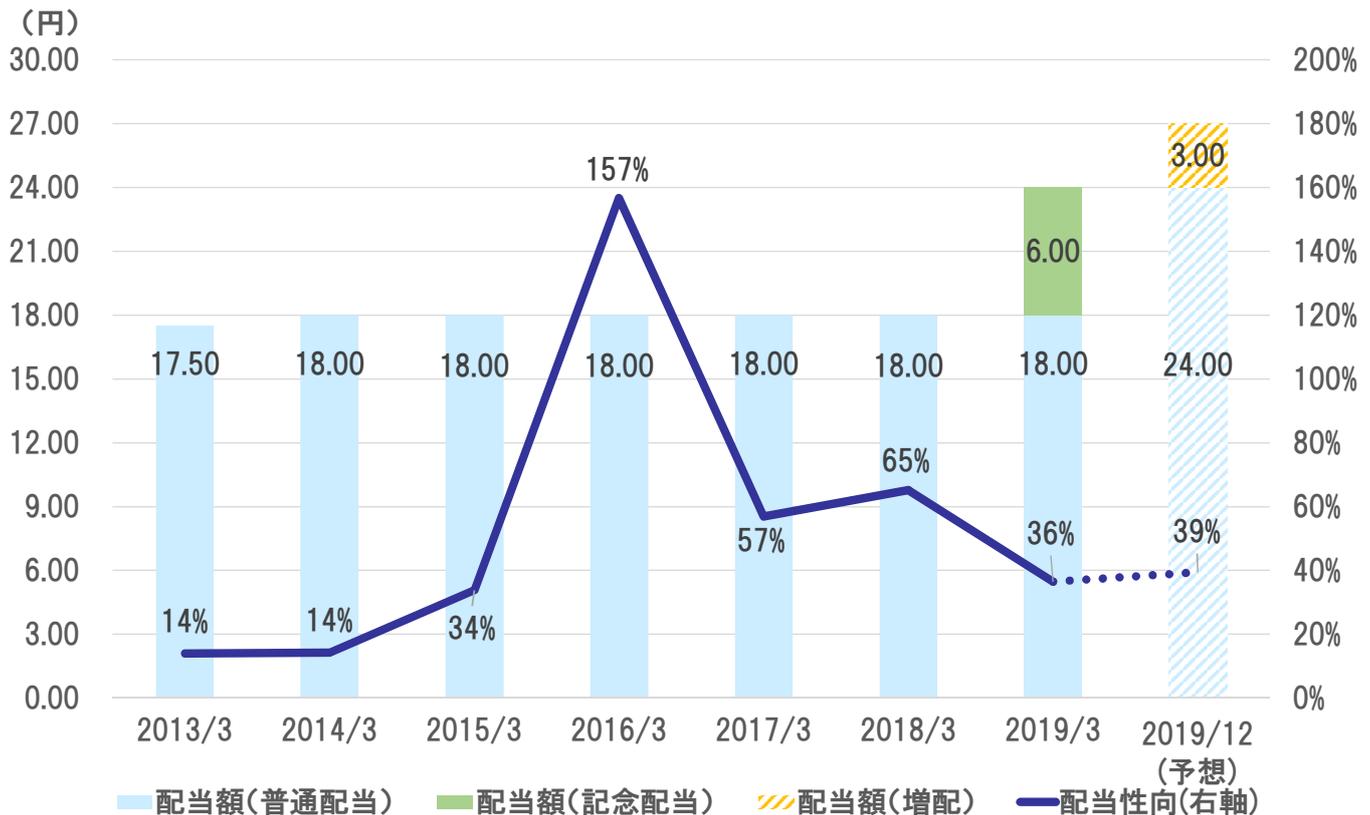
経営目標

	2022年度	2017年度実績
原油価格・為替前提	60ドル・110円	57.85ドル・110.86円
売上高	1兆3,000億円程度	9,337億円
親会社株主に帰属する当期純利益	1,500億円程度	403億円
営業キャッシュフロー	4,500億円程度	2,785億円
株主資本利益率(ROE)	5%以上	1.4%

- ✓ 財務健全性を維持(自己資本比率50%以上を目安)
- ✓ 油価50ドル/バレル継続時も安定した事業運営が可能な体制を維持

注: 原油価格はブレント原油1バレル、為替前提は1米ドルあたりの数値。各指標は制度会計ベース。原油価格・為替レートのセンシティブ性は、2022年度の連結親会社株主に帰属する当期純利益に対し、油価1ドル/バレル上昇(下落)・80億円(△80億円)程度、為替1円/米ドル 円安(円高)・+20億円(△20億円)程度の試算。その他の留意事項は「中期経営計画 2018-2022」(URL: https://www.inpex.co.jp/company/pdf/business_plan.pdf)のP.5をご覧ください。

当社の一株当たり年間配当額、配当性向の推移 **INPEX**



48

CSRトピックス

INPEX

✓ 6つのCSR重点テーマを中心に、事業を通じてESG各分野で責任ある取り組みを推進

＜CSR重点テーマ＞

<p>ガバナンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ガバナンス体制の強化 ● リスクマネジメント体制の構築 	<p>コンプライアンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人権の尊重 ● 法令遵守及び贈収賄・汚職防止 ● 調達における社会・環境影響評価
<p>HSE</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 重大災害防止 ● 労働安全衛生の確保 ● 生物多様性の保全、適正な水管理 	<p>地域社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会・先住民に対する影響評価、低減策の実施 ● 地域経済への貢献
<p>気候変動対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 再生可能エネルギー事業の推進 ● 環境に優しい天然ガスの開発促進 ● 気候変動関連リスクの管理強化 	<p>従業員</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人材育成と働きがいの向上 ● ダイバーシティの推進

【本年の主な取り組み】

ガバナンス:
 税務ガバナンス体制強化の一環として、2019年3月に当社の税務アプローチを明示した税務方針を制定。

気候変動対応:
 サステナビリティレポート2019において、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言に沿った開示を拡充。

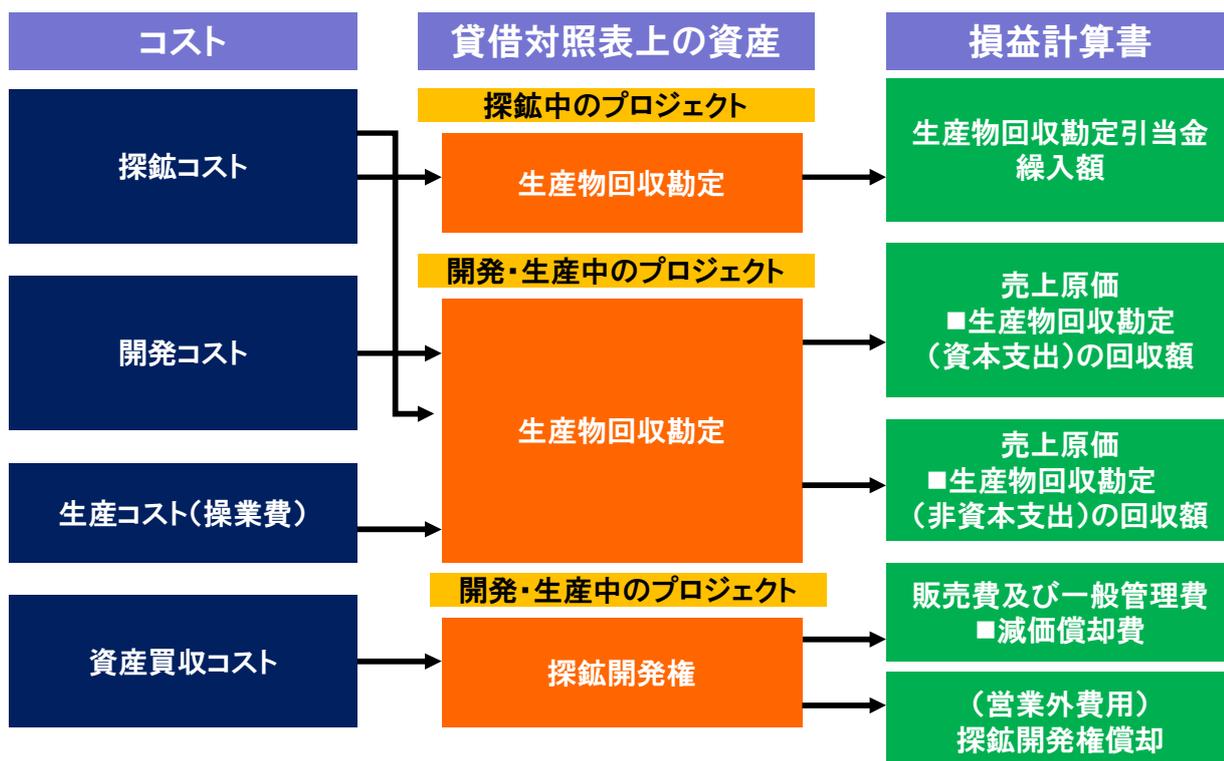
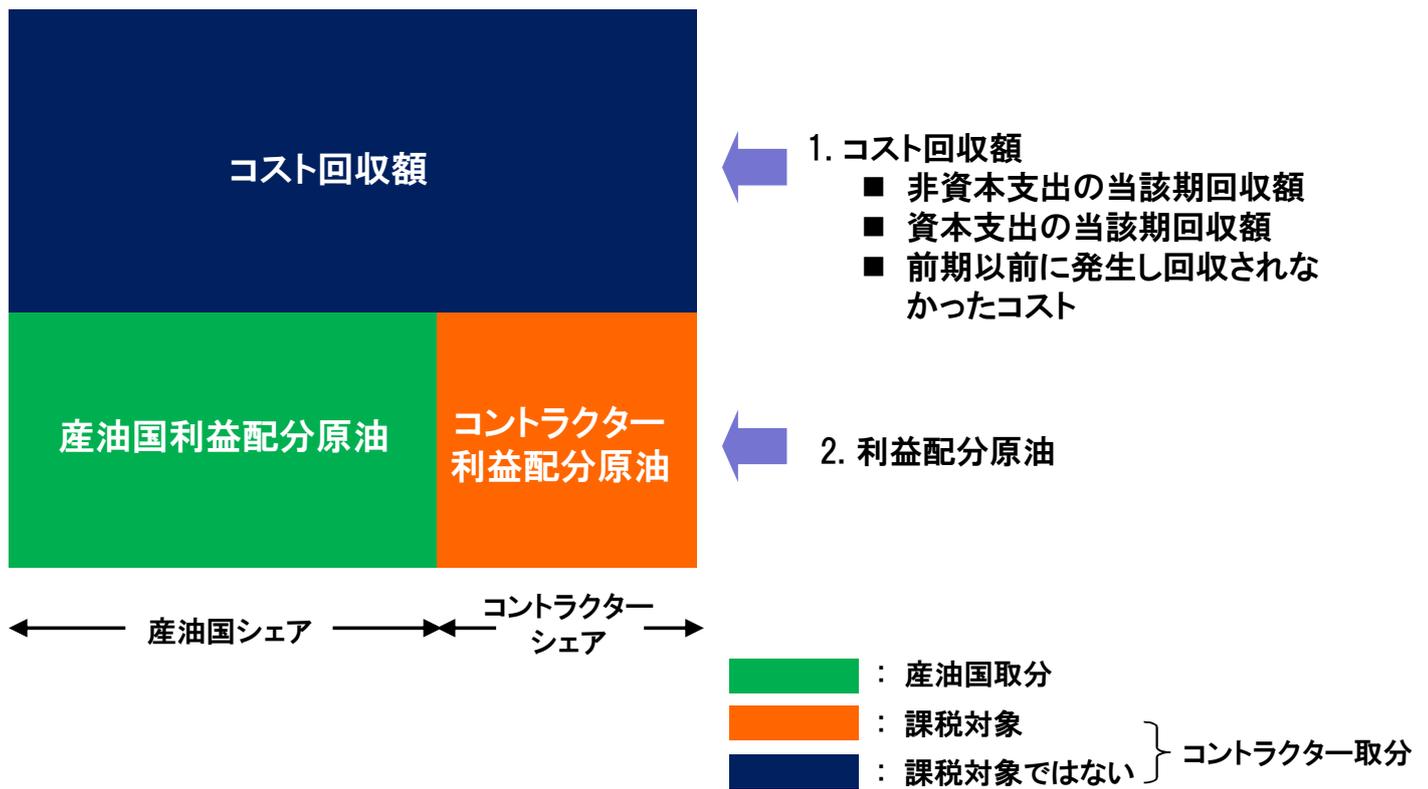
従業員:
 2018年9月にINPEXグループ健康宣言を制定し、健康経営の推進体制を整備。健康経営優良法人2019(大規模法人部門)ホワイト500の認定取得。女性活躍推進企業として2018年度「なでしこ銘柄」に選定。

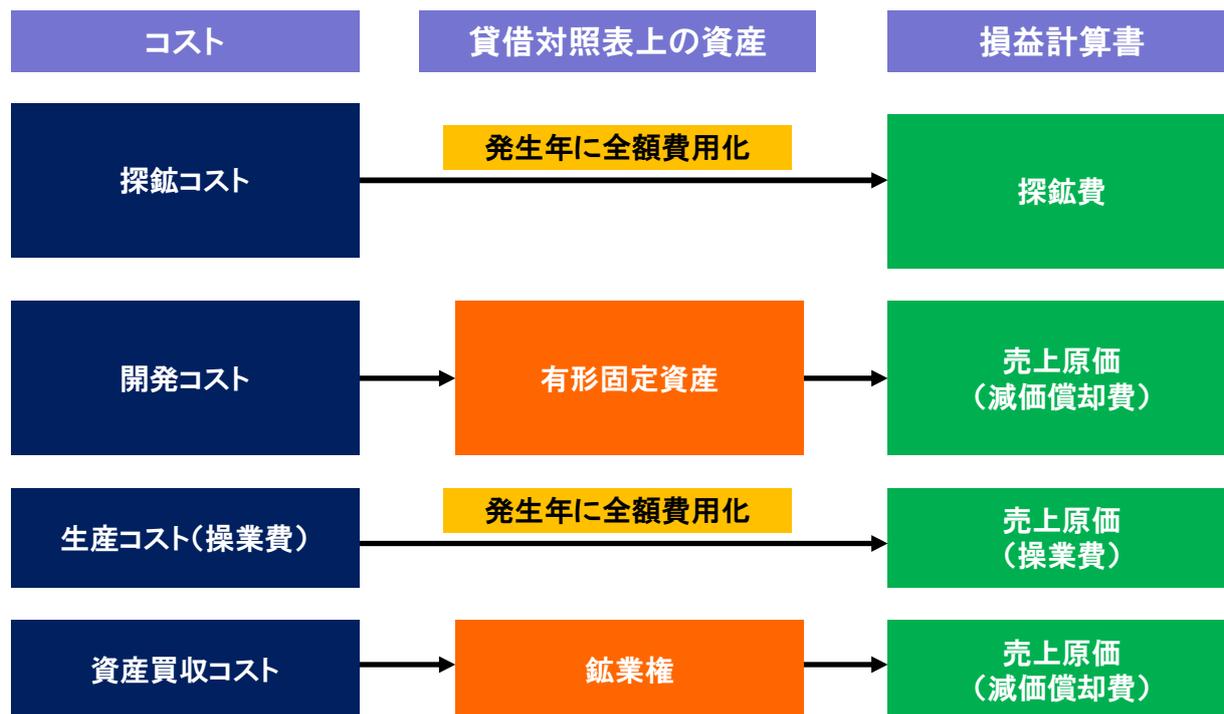
● E(環境) ● S(社会) ● G(ガバナンス)

＜主要ESGインデックスへの組入れ状況＞

FTSE	当社はFTSE Russell社が選定するFTSE4Goodインデックスシリーズのうち、Global IndexとJapan Indexおよび年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が運用対象とするESG指数であるFTSE Blossom Japan Indexの構成銘柄に採用されています。
MSCI	当社は米国のMSCI (Morgan Stanley Capital International) 社が開発した、ESG面で優れた企業を選定する代表的な株価指数であるMSCI SRI Indexes, MSCI ESG Leaders Indexes, および年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が運用対象とするESG指数であるMSCIジャパンセレクト・リーダーズ指数、MSCI日本株女性活躍指数(WIN)の構成銘柄に採用されています。
S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数	当社は米国のS&Pダウ・ジョーンズ・インデックス社が開発した、業種内で炭素効率性が高く(温室効果ガス排出量÷売上高が小さい)、温室効果ガス排出関連の情報開示を行っている企業への投資ウェイトを高めたS&P/JPXカーボン・エフィシエント指数の構成銘柄に採用されています。同指数は、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)が運用対象とするESG指数に選定されています。

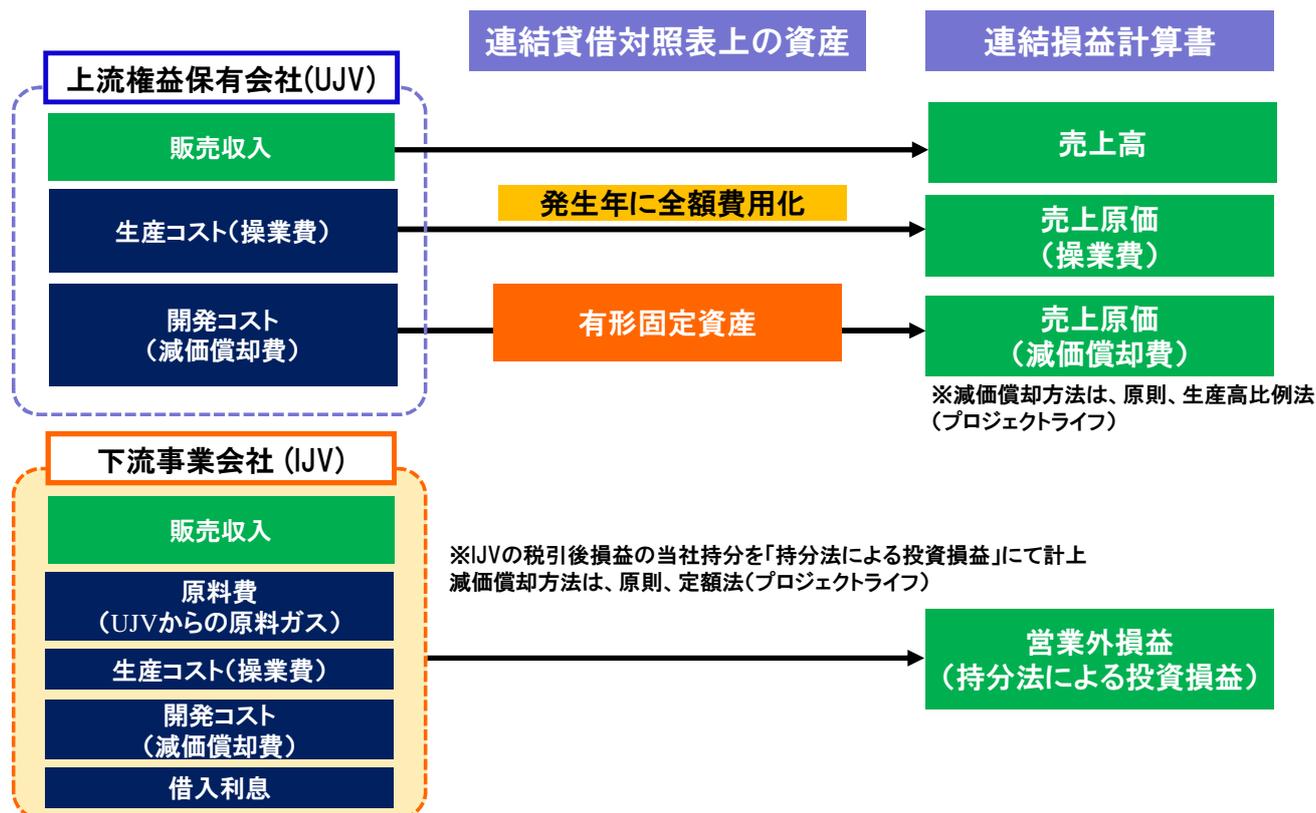
49





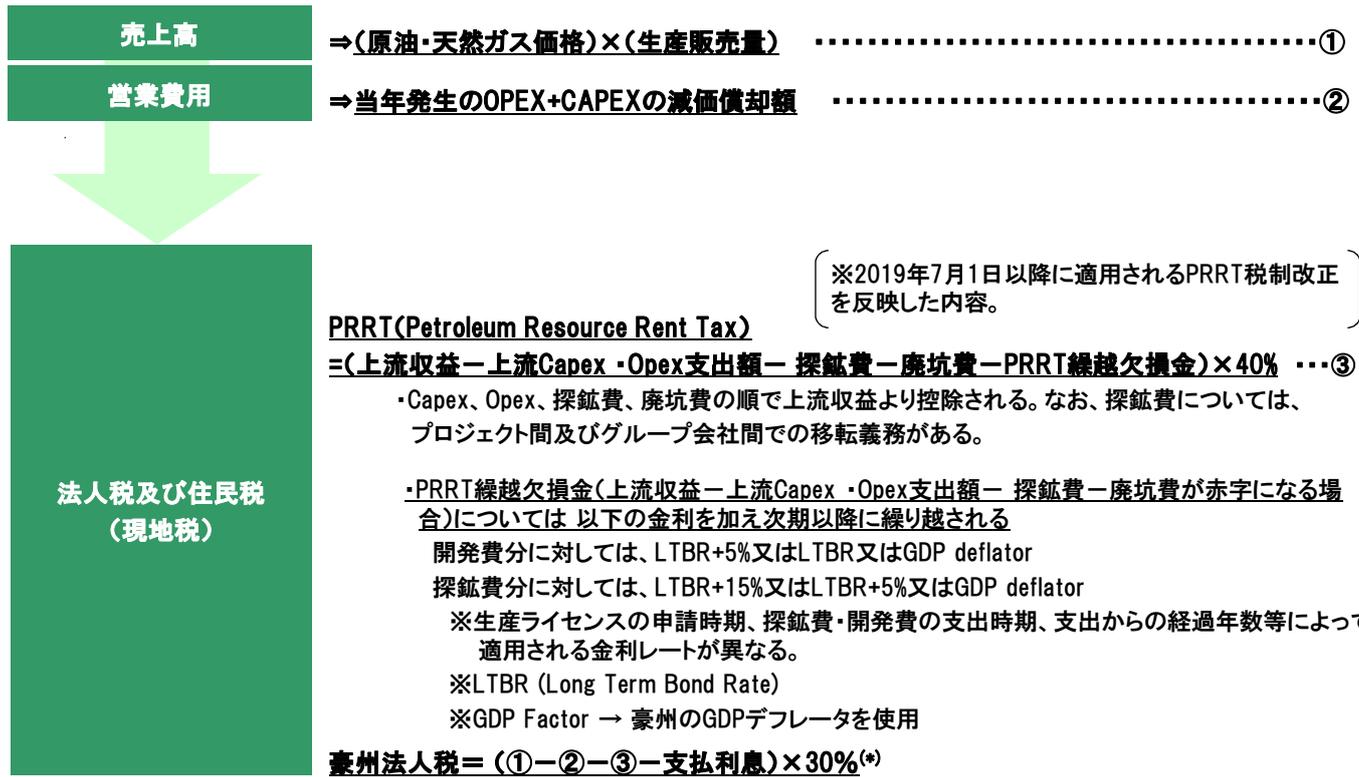
イクシスLNGプロジェクトの会計処理(概略図)

※ コストは主なもの



豪州税制の概要

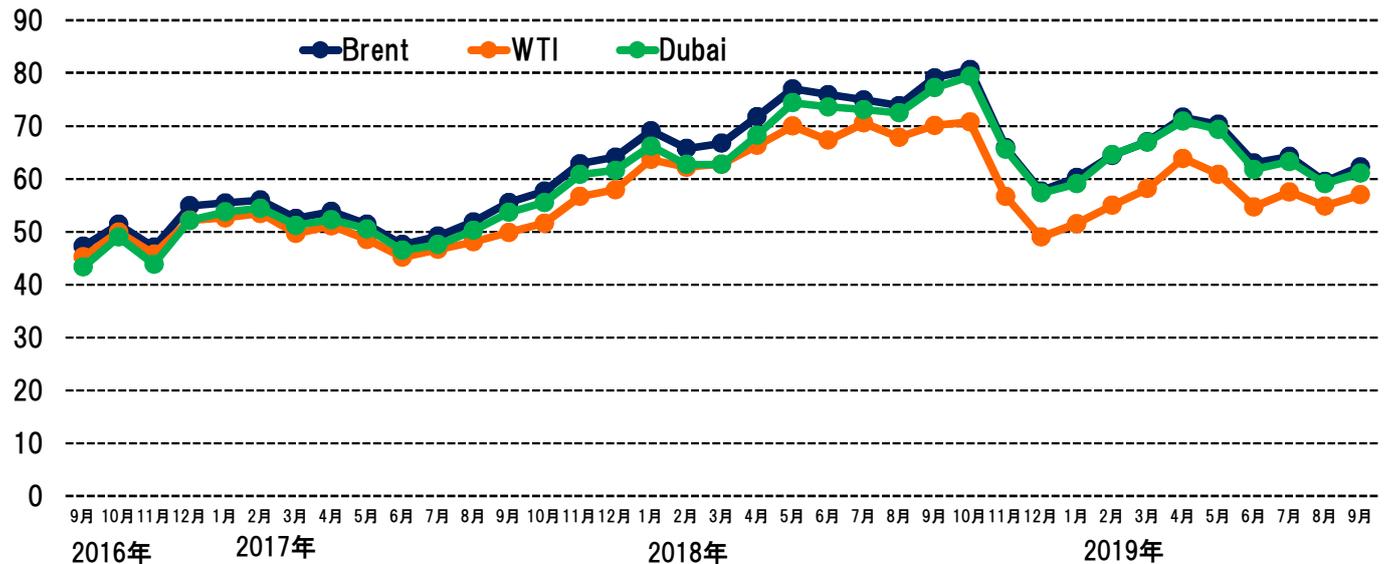
※本スライドの記載内容については、今後税制の改正等に伴い変更の可能性があります。



(*) 豪州法人税の法定税率と、当社の豪州法人子会社の会計上の法人税等の負担率は異なる場合があります。また、会計上の法人税等の計上額が豪州法人税の納付額と異なる場合もあります。

油価の推移

(US\$/bbl)



	2019年3月期 4-9月 平均	2019年3月期 通期 平均	2018年							2019年12月期 4-9月 平均
			4月	5月	6月	7月	8月	9月		
Brent	75.44	70.71	71.63	70.30	63.04	64.21	59.50	62.29	65.20	
WTI	68.69	62.77	63.87	60.87	54.71	57.55	54.84	56.97	58.13	
Dubai	73.19	69.33	70.95	69.38	61.76	63.25	59.11	61.12	64.26	